

児童に建設の仕事紹介

釧建Teamくしろが見学会

【釧路発】釧路開建の4事務所で構成されるTeamくしろは28日、釧路市立阿寒小学校の児童を対象に現場見学会を開催した。担当職員らが事業概要や工法などを説明するとともに、

各種体験を通じて建設業の魅力や必要性を伝えた。

Teamくしろは、釧路管内の教育機関および児童生徒を対象に、学校教育との連携および地域との共創を図り、開発行政に興味を持ってもらうため、ことし結成した。

Teamくしろとして第2弾の取組となる今回の現場見学会は、本年度開通予定である道横断自動車道の

釧路西ICと、阿寒地区における農業基盤整備事業の2現場で実施。開催に当たっては、各現場を施工する小針土建(株)(中標津、小針武志社長)と阿寒共立土建(株)(釧路市、阿部和弘社長)などが協力した。

道横断自動車道釧路西ICの現場では、1年生から6年生まで計60人が参加した。はじめに道路事務所第3工務課の鶴谷孝一課長が

道東道の事業経緯や現場の変遷、湿原における工法などを紹介。また、Dランプ橋の施工については、映像を流しながら自然環境に配慮した工事であることを説明した。

児童らは舗装されたDランプ橋を歩いて渡り、写真撮影などを行ったほか、メ

農業部門では牧草ロールに絵を描いた



タバースを体験した。メタバースは、小針土建の3Dデータをもとに、(株)ネクステラス(札幌、木下大也社長)が作成・提供したものの。仮想空間に完成後の釧路西IC周辺をつくり、ピックアップトラックが走行するレースコースを用意した。子どもたちはコントローラを手に、コースから外れないように操縦した。

農業基盤整備事業の現場には、4年生から6年生までの計35人が参加した。阿寒地区で暗渠排水などを進める阿寒共立土建が協力。農業事務所工事課の山口紗弓技官が国営緊急農地再編整備事業について整備目的や内容を説明するとともに、暗渠排水の模型を用いた解説、ユンボやトラクターなど重機の乗車体験を行った。子どもたちは牧草ロールに絵を描くなどして、建設事業や作業機械に親しんだ。